

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 作文やノートなどに習った漢字を使わずにひらがなで文章を書く児童が多い。 - 自分の考えを文章で的確に表現したり、文章を読んで内容を正しく理解したりすることが苦手の児童が多い。	- 指書きを徹底するとともに、小テストを実施し、漢字の定着を図る。【発見】 - 辞書の活用や児童同士で文章を読み合う活動を取り入れる。【対話】 - 文章を書いた後に必ず読み返し、誤りを修正する習慣を身に付けさせる。【発見】 - 書くことが苦手の児童には、簡単な問いかけを行いながら内容を想起させ、表現できるよう支援する。【発見】		
算数	- 長さや大きさについて、実生活との関連付けが難しく、身近なものの単位感覚が十分に身に付いていない児童がいる。 - 四則計算の方法は理解しているものの、ケアレスミスが多く、計算のスピードも遅い児童が見られる。特に、繰り下がりのある引き算に課題が見られる。 - 問題把握の場面で、問題文の意味を理解するまでに時間を要する児童がいる。	- 算数の学習の基礎となる生活経験や算数的活動を意図的に取り入れる。【対話】 - 基礎・基本の定着を図るため、毎時間、→の授業開始時に「3分計算」を実施する。【発見】 - 文章問題では、重要な言葉や表現に線を引いたり印を付けたりする活動を取り入れる。【表現】 - 文章問題を解く際には、図や表を用いて考える活動を設定していく。【表現】		
理科	- 予想や考察を、自分の考えとして表現することが苦手の児童が多い。 - 理科の学習に対する興味は高いが、主体的に取り組み、思考を深めていこうという児童が少ない。	- どのようなことを書けばよいのか、文章へ記述する内容や視点をあらかじめ示し、自分の考えを書く経験を積ませる。【発見】 - 児童が主体的に活動できるよう、意図的に自然の事物・事象に働きかける活動を充実させ、問題を自分事としてとらえられるようにする。【発見】		
社会	資料から必要な情報を正しく読み取ったり、取り出した情報を比較したり関連付けたりすることに難しさを感じている児童が見られる。	- 資料を読み取る際には、着目すべきポイントが分かるようICT 機器等を活用し、視点を明確に示す。【発見】 - 比較や関連付けを行う際には、「どこが同じか」「どこが異なるか」を明確にしながら考えさせる。【決定】		
音楽	技能面で、リコーダーの運指やタンギングの定着をはかるのに時間がかかる児童がいる。	基礎的な奏法や音符のきまりを身に付け、技能の習得のために継続的な取り組みで定着を図るようにする。【対話】【表現】		
図画工作	自ら考え、思いに合わせて材料を工夫することに課題が見られる。	- 造形あそびの題材で、自分から材料に関わり、材料に慣れる機会を増やす。【発見】 - 材料の工夫を友達と共有し、材料への理解を深めさせることで、自分で考え工夫できるようにする。【対話】【表現】		
体育	互いにアドバイスし合う経験が少なく、適切な助言を行うことが難しい児童が多い。	- 助言の観点や学習の中で見付けたコツをまとめたカードを活用し、児童同士の学び合いを支援する。【発見】 - 児童が見付けたコツを書き込めるイラストや図をカードに取り入れ、学びを共有し価値付けられるようにする。【表現】		